

## 令和6年7月豪雨に関わる支援活動 最終報告書



2024年7月25日からの大雨は、東北地方に豪雨が襲い、河川の氾濫や地すべりなどの被害を引き起こしました。青森県、秋田県、山形県、栃木県、新潟県の5県で被害が発生し、11月21日時点で人的被害は10名(死者5名、負傷者5名)、住宅被害は2,098棟(全壊25棟、半壊578棟、床上浸水87棟、床下浸水1,399棟、一部破損9棟)が報告されています。

山形県では、大雨に伴い、河川の越水による氾濫が発生しました。公益社団法人シャント国際ボランティア会(以下、当会)は、緊急人道支援に取り組むため、8月1日より最上川中流域の氾濫被害にあった戸沢村にスタッフを派遣し調査を開始、戸沢村社会福祉協議会(以下、戸沢村社協)を始め、支援団体と連携し活動を実施しました。

## 初動調査

発災から約1週間後の8月1日から4日、初動調査として職員を派遣。平時からつながりのある団体を通じて、戸沢村災害ボランティアセンター(以下、災害 VC)にて調査を実施しました。今年は、能登半島地震に関心が集まる中、大雨による被害が多発し、全国各地で被災者支援活動が行われる中、支援の手が届きにくい地域をサポートすることを目的に活動しました。

### —戸沢村被災状況—

人口約 3,700 人の小さな村で、被害エリアは古口地区、蔵岡地区の 2 地区に分かれており、蔵岡地区は 69 戸すべてが床上浸水被害を受け、高い所で約 3m 浸水しました。7 月 25 日に全戸避難が勧告されたため、100 人以上が避難所での避難生活を余儀なくされました。

また、地域コミュニティの中心となっている寺院も水没。床上2メートル程度の浸水被害がありました。



蔵岡地区で浸水被害を受けた寺院

### ・6年間で3度の浸水被害

最上川沿いに位置する集落である戸沢村は、平成30年8月6日豪雨と同年8月31日豪雨、そして今回の令和6年7月豪雨と僅か6年の間に3度の床上浸水被害を受けました。いずれも様々な防災の取り組みが行われていたにも関わらず、大きな被害が発生しました。

平成30年の被害は、これまで最上川と角間沢川からの内水氾濫に悩まされていた住民の要望により、同年の1月に排水ポンプが国によって設置されたのちに起きたことです。しかし、2回とも停電のためポンプが稼働しなかったり、ポンプは稼働したものの、排出口のスクリーンに木くずや土砂が詰まったり、浸水被害を食い止めることは出来ませんでした。この結果から、新たな対策として輪中提の建設が決定し、2023年末にようやく完成しました。そんな安心感も束の間、今回の水害では、近年で一番の被害が町を飲み込みました。これまでは角間沢川の内水氾濫だったのが、今回は最上川の越水ということで泥も多く、2階まで浸水した家屋も多くあり、家財を避難させる場所もなければ、垂直避難も出来ない状況でした。

浸水被害を受けながらも、蔵岡地区の被害の様子を案内していただいた寺院との現地調査の結果、浸水した家屋の応急処置対応に必要なサーキュレーターを購入支援と、9月に地域コミュニティの中心となっている寺院での復興イベントの実施支援を決定しました。その後、9月に実施予定だった復興イベントは、地元の関係者の尽力によって前倒しで8月14日に実施されたため、戸沢村社協と調整の上、追加支援として、浸水被害を受けた世帯への暖房器具の供与を決定しました。



蔵岡地区の住民へヒアリング



災害 VC と支援内容について打合せ

## 災害ボランティアセンターを通じた浸水家屋への備品供与

災害 VC では、一般ボランティアによる浸水家屋の家財出し等の作業に加え、重機や専門技術を使って被災地支援する技術系ボランティア団体と連携して床下の泥出し等の作業を実施していました。浸水した家屋は、床下に泥が堆積しており、泥出し作業やその後の除菌、乾燥作業が必要となります。乾燥には床下に設置することのできるサーキュレーターが有効です。1 か月程度送風し十分に乾燥させたうえで修繕を行うことで、その後の生活の中で湿気やカビが少なく、家屋がこれ以上傷まなくなります。



災害 VC に届いた支援物資

当会は、災害 VC を通じて浸水家屋の乾燥作業にサーキュレーターを有効活用いただいた他、浸水によって電化製品が故障してしまった方に対し、冬を迎えるにあたり、石油ファンヒーターの支援を行い、蔵岡地区・古口地区(半壊以上)の在宅避難者、みなし仮設、子育て住宅、公営住宅で生活されている方へ届けられました。



石油ファンヒーターを配布



浸水家屋の床下に設置したサーキュレーター

### 支援内容

サーキュレーター58 台、冷凍・冷蔵ストッカー1 台、石油ファンヒーター50 台

## モニタリング

発災から3 か月が経った10 月下旬、当会が支援した備品が効果的に活用されたか確認するためのモニタリングを実施しました。

戸沢村社協では、支援の内容や量・方法が適切だったのかなどを聞き取りました。サーキュレーターについては当会からの支援によって、必要な分をほぼ8 月中に確保することが出来たとのことでした。また、早期にまとまった数量の暖房器具の支援の目途が立ち、支援の対象を明確にすることができたこと、加えて、冬に向けての対策を進めることができたことコメントを頂きました。

## 今後の状況と課題

今後、戸沢村では地域支え合いセンター事業として、在宅避難者の見守りやコミュニティ再建の活動を展開していくことになりました。地域支え合いセンターの生活相談員が巡回をする中で、被災者支援制度を十分に活用できていない方や、平時から抱える課題が災害によって顕在化し、福祉的な支援が必要な方を支えていく体制が整えられていきます。

そんな中、度重なる浸水被害を経験し地域が一体となって住居を集団的移転する「防災集団移転促進事業」を提案する声も上がってきているようです。浸水した地域を元に戻すだけでなく、今後安心して暮らしていくための環境づくりが求められていきます。また、特別豪雪地帯に指定されている戸沢村では元々床下が1.5メートルもある住家が多く、従来の罹災判定の方法では、浸水被害に比べて小さな判定が出てしまうため、十分な補助を受けることが出来ないといった課題も見えてきました。地域の風土に応じて、支援制度が柔軟であるべきだという意見も聞こえてきました。

家屋の対応だけでなく、本当に安心して住むことができるためには何が必要なのか、根本的な解決には本当に時間がかかります。改めて本年の自然災害で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 事業実施期間

2024年8月1日～10月31日

## 会計報告

### 【収入】

項目	金額(円)
日本テラワータ仏教協会	1,500,000
ご寄付	353,103
合計	1,853,103

### 【費用】

	項目	金額(円)
現地事業 実施経費	旅費交通費	198,039
	直接事業費(サーキュレーター、ストッカー、暖房器具等)	1,065,191
	運賃送料	4,400
	職員(派遣スタッフ)人件費	170,000
	一般管理費	415,473
	費用総額	1,853,103

\* 当事業は、主に、「日本テラワータ仏教協会」様と皆様のご支援を受けて実施しました。

発行日:2024年12月6日



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
国内事業課  
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233  
FAX 03-5360-1220  
URL <https://sva.or.jp/>